

第9回運営推進会議 資料

事業所名	地域密着型通所介護 レコードブック川越大手町
担当者	管理者 古嶋 洋基
所在地	川越市大手町8-6カーサボスコ1階T-103
開催日時	令和6年4月26日 金曜日 PM2:30～
開催場所	レコードブック川越大手町
出席者及び 議事録送付先	当職員:小椋、加納、原 看護師8名 ドライバー1名 (計13名 後日情報共有) ご利用者代表 池田 文雄 様 川越市地域包括支援センターきた 安原 様 川越市自治会 第四支会 山崎 耕一郎 様 川越市民生委員 水村 富美子 様
当事業所の運 営業況	令和6年3月31日現在 利用者登録人数 120名(男性30名、女性90名) 平均年齢 83.9歳 事業対象者含む要支援の利用者登録人数 57名 要介護の利用者登録人数 63名 介護度の内訳 事業対象者9名、要支援1 21名、要支援2 27名 要介護1 35名、要介護2 19名、要介護3 3名、要介護4 4名、要介護5 2名
行事報告	集団運動 月間テーマ実績 ご利用者の多くが悩んでいることや元気で安全に生活していく為の予防知識を月間テーマに掲げた 運動プログラムと紙芝居による動機づけを行いました。 10月 腰の痛みと上手に付き合いましょう 1月 尿失禁を防止しましょう 11月 外出を楽しんで閉じこもりを防止しましょう 2月 ストレスと上手に付き合いましょう 12月 膝の痛みと上手に付き合いましょう 3月 からだと会話しましょう
主な議題	自然災害発生時における業務継続計画について【別紙資料あり】
実施内容と 説明	Business Continuity Plan (BCP)は、自然災害や大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合に、 事業資産の損害を最小限に抑え、中核となる事業の継続や早期復旧を可能にするための計画 ① リスク評価とビジネスインパクト分析(BIA): 自然災害の可能性を評価し、それが業務に与える影響 を分析する。また業務の優先順位付けを行い、緊急時の対応を計画する。 ② 代替施設と設備: 災害時に業務を継続するための代替施設や設備を確保し、バックアップサイトや クラウドサービスなどの選択肢を検討する。 ③ 通信計画: 災害時に従業員や顧客との連絡を維持するための通信手段を確保し、非常用の電話 やインターネット接続などの通信設備を用意する。 ④ データバックアップとリカバリ: 業務に必要なデータを定期的にバックアップと安全な場所に保管す る。またデータの復旧手順を明確にし、迅速な復旧を図る。

	<p>⑤ 従業員の安全と連絡： 従業員の安全を確保するための手順を策定し、災害時の従業員への連絡手段や指示を準備する。</p> <p>⑥ 業務プロセスの継続性： 業務プロセスの継続性を確保するための手順や規定を定め、クリティカルな業務機能を特定し、その継続性を優先する。</p> <p>⑦ テストとトレーニング： BCP を定期的にテストし、改善するためのフィードバックを得る。従業員に対してBCPのトレーニングを実施し、対応能力を向上させる。</p> <p>⑧ パートナーシップと連携： 外部のパートナーとの連携を強化し、災害時の協力体制を構築する。政府機関や地域の救援組織との連携も重要である。</p> <p>⑨ 法的規制とコンプライアンス： 適用される法的規制やコンプライアンス要件に対応するための措置を講じて、業務継続性計画が規制に適合していることを確認する。</p> <p>これらの要点を含めて、組織の業務継続計画を策定し、災害時にスムーズな対応ができるようにする。</p>
<p>気付き・改善</p>	<p>上記の項目に挙げられる課題から Business Continuity Plan (BCP)は、災害や緊急事態に備えて事業の損害を最小限に抑え、継続と早期復旧を目指す計画なので、これから運用するにあたり、主な気付き・改善策を纏めた。</p> <p>リスク評価と対策の策定： BCPは、自然災害やテロ攻撃などの潜在的なリスクを評価し、それに対する対策を共有する。これには、建物や設備の耐震化、データのバックアップと保管、セキュリティ対策などが含まれるので定期的に研修を行う。</p> <p>事業継続計画： BCPは、事業の中核部分を確保し、継続させるための計画を含まれ、代替施設の確保(現状保留)、従業員の安全確保、業務の優先順位付けなどを纏める。</p> <p>従業員の役割と責任： BCPは、従業員が災害時にどのような行動を取るべきかを明確にし、責任を割り当てる。これには、緊急連絡先の確立、指示の周知徹底、訓練と演習を定期的に行う。</p> <p>情報管理とコミュニケーション： BCPは、情報の管理と円滑なコミュニケーションを確保するための手段を提供し、災害時の情報共有を円滑に行う。</p> <p>定期的な評価と改善： BCPは、定期的な評価と改善プロセスを組み込むことで、常に最新の状況に対応できるようにする。これには、災害後の反省と教訓の抽出、計画の更新と改訂によりブラッシュアップを図る。</p> <p>BCPは、事業の持続性と復旧力を高め、災害や緊急事態による被害を最小限に抑える重要な戦略と位置付ける。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>次の要点はすべて業務継続計画の重要な構成要素なので、定期的に社内研修を行う。</p> <p>業務プロセスの継続性： クリティカル(危機的)な業務機能を特定し、その継続性を確保することが最も重要。これにより、組織は最も重要な業務を優先して継続し、損失を最小限に抑えることができる。</p>

	<p>利用者・従業員の安全確保と連絡基準： 利用者・従業員の安全確保することは、組織にとって非常に重要。利用者・従業員が安全であることが確認され、災害時の連絡手段や指示が整備されていることが極めて重要。</p> <p>リスク評価とビジネスインパクト分析： 自然災害のリスクを正確に評価し、それが業務に与える影響を理解することも重要。これにより、適切な対策や予防策を講じることができ、これらの要点を優先的に考慮することで、組織は業務継続性を確保し、災害時の対応能力を向上させることができる。</p>
次回の開催 予定	日時:令和6年10月吉日 場所:レコードブック川越大手町 店舗内にて